三哲小傳

完

六

番田

121.2
R99s

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

傳

完

121.2
R99s

三哲小傳

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

三哲小伝

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

國立國會圖書館藏書

三哲小伝序

相本之印

國立國會圖書館
24. 9. 5
25597

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』　請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

25597

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』　請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

身を雲霧に隠して水瀬(ミナセ)
室生(ムロフ)の霊場より妙法寺に住(ヲ)
給ふ密師乃(ノ)ことを伝(コト)へ聞(キ)
もつとも尊信し給ひ其寺のかたへに家(イヘ)
をつくり母(カ自)をむかへ朝夕(アサユフ)
孝養(カウヤウ)し給ひ終(ヲハ)りをとられ
給ふまでかしづき給ふ後(ノチ)に雑賀の東高津
にくれもちさま庵(アン)をもうけ給ふ
元禄十四年辛巳正月廿四日ことし
おもひ給ふことありとて庵(アン)
はものこらず六十二(ムソジ)にて
終(ヲハ)り給ふ

三

老(ヲイ)ては雲霧に隠して水瀬(ミナセ)
室生(ムロフ)の霊場より妙法寺に住(ヲ)
給ふ密師乃(ノ)ことを伝(コト)へ聞(キ)
もつとも尊信し給ひ其寺のかたへに家(イヘ)
をつくり母(カ自)をむかへ朝夕(アサユフ)
孝養(カウヤウ)し給ひ終(ヲハ)りをとられ
給ふまでかしづき給ふ後(ノチ)に雑賀の東高津
にくれもちさま庵(アン)をもうけ給ふ
元禄十四年辛巳正月廿四日ことし
おもひ給ふことありとて庵(アン)
はものこらず六十二(ムソジ)にて
終(ヲハ)り給ふ

葛城乃(ノ)ふもとに水(ミヅ)
くむ里(サト)あるじなるまれひと
御国(ミクニ)のいにしへ古言(フルコト)のこり
たるをとりあつめ詞(ウヅ)のしら
るかしなど書(カキ)しるしてなづく
人まろの道(ミチ)をたづねおのがもち
を水(ミヅ)もらさず門光国卿(ミツクニキヤウ)
かの国乃(ノ)久喜(クジ)の西ふもとの中納
言殿(ドン)もおなじく君の栽(タネ)をくばり

阿閦梨の歌乃中う

海邊霞

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』　請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

秋きぬと野ゝ木機織もすそつゝそ
人麿の筆をそてるかきもの
水ぐきの今もかゝやきあれ不見乃海
山家
雲おこし都のそらゝ木ゝ
述懐
春ゝそゝそゝつゝもゝるゝまゝくいかゝ
おもふらめ身ゝなき物ゝ
秋ゝそゝ家ゝも實ゝも名をなゝて立おゝゝ

春乃ゝまゝ野ゝ小ゝそをくゝ捨ふゝゝめるの帝路さゝふ
廿九ゝおりゝるゝゝ
ワゝ身ゝゝそゝゝもゝ空の拾遺ゝ雑ゝゝもゝゝ
西山乃中納言殿よゝゝもゝ人ゝゝきゝ衣食料
ゝゝゝゝ
雲ゝゝみゝおゝゝの家ゝを出ゝゝゝゝゝゝ

鍬形紹真寫

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』　請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

賀茂縣(アガタ)井乃大人(ウシ)の遠江國敷智(フチ)郡伊場村の岡部新宮乃称宣定信縣主乃二郎子(ツク)母(ナ)同郡山村の竹山氏(ウヂ)の女(ムスメ)なり後(ノチ)に祢宜(カンヌシ)岡部宇(アザナ)左衛門(エモン)尉(ノジョウ)と称(イヒ)し國(クニ)の真淵(マブチ)翁(ヲキナ)に学(マナ)びて歌(ウタ)の名(ナ)を賀茂(カモノ)麻呂(マロ)と改(アラタ)めしかども後(ノチ)に戸(カバネ)を岡部(ヲカベ)と改(アラタ)めしかども後(ノチ)に住所乃名(ナ)を以(モテ)戸(カバネ)とせしなり師重(モロシゲ)と云(イフ)師重(モロシゲ)の賀茂(カモノ)成助(ナリスケ)翁(ヲキナ)を訪(トブラ)ひ給(タマ)ふ事(コト)は別(ベツ)に出(イデ)たり

津之乃(ツノ)命(ミコト)の後(ノチ)なり師重(モロシゲ)より五人(イツタリ)あり筑前(チクゼン)乃国(クニ)大宮(オホミヤ)司(ツカサ)命婦(ミヤウブ)となりまゐり久師(ヒサモロ)久師継(ヒサモロヒサツグ)なり筑前(チクゼン)乃国(クニ)より遠江國敷智郡濱松庄岡部郷(トホタフミノクニシキチノコホリハママツノシヤウヲカベノサト)へ封戸(フゴ)五百石(イホ)を

きまつりぬることゝ賀茂の新宮をいつくしまつりくれ乃祢宜(カンヌシ)なり後(ノチ)の神領(シンリヤウ)こゝに兄弟(ハラカウ)のことゝひまうし弟の道久(ミチヒサ)を岡部乃代官(ダイクワン)とさしたゝ久齢八十(ヤソ)にあまりまでありつゝ祢宜(カンヌシ)乃事(コト)を講(コウ)じ乃ち師継(モロツグ)に神領(シンリヤウ)を請許(コヒユル)されて文永十一年六月七日前周防守(サキノスハノカミ)藤(フヂ)原(ハラ)朝臣(アソン)を達(タツ)して持明院殿(ヂミヤウインドノ)に参(マヰ)らせ乃ち祢宜(カンヌシ)の令旨(リヤウジ)を賜(タマ)ひて大藏卿(オホクラキヤウ)の奉(ウケタマハ)る院宣(インゼン)をもて乾元(カンゲン)元年十二月朔日(ツイタチ)に祢宜(カンヌシ)の事(コト)を定(サダ)めらるゝ院宣(インゼン)を師継(モロツグ)に賜(タマ)はりぬ師継(モロツグ)より名(ナ)を師朝(モロトモ)と改(アラタ)めしかども二代の後(ノチ)の乱(ミダレ)をもて名(ナ)を師朝(モロトモ)と改(アラタ)めしなり大人(ウシ)も師朝(モロトモ)と改(アラタ)めしなり大人(ウシ)も漢学(カラマナビ)を

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

…ゟまうくくはゟり出…くれぐれおもり享
保十八年京(ミヤコ)されバつゝく荷田東麿(カダノアヅママロ)宿禰乃門(ノカド)に中
間(クニ)もろうくこゝろ乃学ゝに秀くかゝ…
夫乃下まろ抔まねバ筆(テヅ)をゝくぐるいれ〳〵抔
古学(フルコトマナビ)の雑波乃業(ワザ)沖法師荷田東麿宿禰乃門に中
入(イリ)れもてといへぐも大人(ウシ)ゟゝひくゝもゝゝみさう
ゟれもまねる江ノのくもとゝ小野吉道ぐゝをく父(チヽ)の跡(ナツキ)
をまねるもとよりはぐ〳〵大人(ウシ)も業(ワザ)を更ゟ徒(トモガラ)に百
人(モヽタリ)あるぐ中ゟ…藤原宇万伎(ウマキ)村田春郷(カドリ)撰取(エラビ)奥(オク)
橘千蔭村田春海(ハルミ)本居宣長(ノリナガ)等本田乃ゟもとぐ乃名

…春(トリ)ごゝろゟり村田ゟゝ橘枝直(エダナホ)れぐゟうゟゝさ交
…ゟれもありもゟ大人(ウシ)ぐゟ濱松(ハママツ)ゟゝ駅長(ムマヤノヲサ)梅谷甚三郎(ウメヤジンザブロウ)ぐ
養(トリ)ごゝろゟもとゟとて市左衛門(イチザエモン)ゟゝ…
ゟゝ法松(ホフマツ)ゟゝ寛延二年江戸(エド)ゟぐゟく村田春道
ぐ家(イヘ)とあるぐゟゝ遠(トホ)ゟゝ八町堀(ハチヤウボリ)ゟる橘枝直(エダナホ)ゟゝ
ゟゝ家(イヘ)はゟゝくもとゟもゟまゟ明和(メイワ)元年の秋
濱町(ハマチヤウ)ゟゝゟゟゟゟゟ人延(エン)ま三年田安乃ゟ殿(トノ)ゟあゟ枝(エダ)く
やまと学の師(シ)ゟまけられぬ大殿(オホトノ)ゟり養乃御紋(ミモン)の出夜(イヅヨ)と
結(ユヒ)ゟとゟあ人ひて人行(ユク)やゟ乃浄名(ミヤウミヤウ)ゟとゟゟ人きゟかゞ
ゟんゟのゟ神やゟゟゟんゟゟゟく奉(マツ)ゟゟ人寛暦十年

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』　請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

土月言我仕(ツカマツ)ること義(トリゴ)なり乃ち寛永七年庚午郎左衛門定雄と家をつぐ
しも明和六年十月晦日齢七十三にて身まかりぬ江戸
芝川東海寺ある少林院のうしろ洞乃ふもとうづみ云
珠院墓洞義龍居士と法(ノリ)もらひおくりなとて其あらはれ
書六十部よみおほべる中萬葉考續萬葉論冠辭考
詰意考源氏物語新釋百人一首初学
古麗考伊勢物語古意源氏物語玉の小櫛神樂考催馬樂考
浄土三部假名抄言釋歌意考文意考るどあまた板(キ)
りおとれる家集二十本あり藤原宇万伎ぶ弟子もち
上田秋成ぶ棒(アヅサ)ともまもる村田春海翁のかうぶ(エリマキ)へるとて

しくもろかるものの書(キ)本ふるりまでふるれ
る欲やとてもの國人ふるよしもがな
よをつるまでおちるとぶひくうぐひすのまつ跡をたぐふ乃か
さともとめおぐしのうし乃ふもとの天もとのおもて人假
すくふそうく学ひのこちをゆくかも
右ぞ略傳ぃ立綱佐師ぶこゝろうまにおろかさう
をもりくりこれ少年ぶ学ひ賀茂眞淵翁
家傳ぶこゝろをたくわるを大ぢまをもて利(エリマキ)本ふも社とて人

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

ありく春よ花ちるを
よいくさぐく文政え年十一月九日後学高田与清撰
縣居大人のそこの中よ
春日望ふるさとへとをと
みすこもかいあされ香をふり籾ひひあるこそふるさと
もとこれ
古郷も野遇こふくれいむすま妹ともこれの花咲みくり
家のこくく
宇多くれとなまのこころ
心里へおくすをさふるさと

卯のそをとも毎よおくかつくまー心時鳥さしもおくり
嵐
志れのをる窓のあく野をこ人就驚の廻とそるこ秋あし
海眺望
播磨くこ迫門も入日のもろくみく空うかく舟の
古寺鐘
今一ゝ入ふ人いねをゝゆ
菱日東海道中望富士ふ
ふの根も蘇をこそく約雲いあこふ乃こ行かまろ
古郷よすこくまてすをなれくあばこふ

十

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

鏡形紹真寫

十一

秩幸姑爺姓い平名い宣長字ハ中衛（ナカエ）家ゟ号ハ鈴ノ屋ノ翁ゟ
手ゟ給ひし後諡（オクリナ）ニ秋津彦美水櫛（アキツヒコノミツノクシ）根ノ大人ゟ
神風乃伊勢ノ国ゟ飯（イヒ）ゟ郷ノ住ゟ朝ゟ紀
ゟん殿ノ仕へゟし病ひ治ゟふゟと
あゟ称ゟを遠乃昔ノ祖（オヤ）ノ模倣（タクヒ）ゟ
の殿乃ほゟまゟゟ人ゟなり寛政
ゟろゟ一ゟゟく歌ゟもゟゟへ
寛ゟれ書ゟゟく百八十巻ノ
ゟほゟゟれあゟ表ゟゟ
下ゟん人のゟ所ゟあゟいゟゟ何ゟゟいゟんゟれ

春ゟゟゟを毎ノふゟゟゟもゟくあゟ
手ゟ坂人ゟ画ゟゟゟゟ敷嶋乃
朝日ノ匂ノ山ゟゟゟ死ゟいはゟゟ
年ゟノゟゟ九月廿ゟ九日乃日ノ齢七十ゟ
ゟゟ給ひしいゟかれゟゟ
くゟゟゟかゟゟ天乃下れ
ゟれん学（マナヒ）ゟ斎藤彦麿手ゟ
給ふ乃ゟれの歌ゟ中ノ

菱ゟゟ春の櫻ゟゟゟゟゟ
さゟゟゟゟし名残乃椿ゟ

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』　請求記号 121.2-R99s　　ガラス使用

三哲小伝のもとをかゝげて詞

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

耕文堂蔵版目録　京橋銀座三丁目伊勢屋忠右衛門

新増四聲節用大全　横切本　近刻　全一冊
真字附
數百種の日用集あまねく世に行るといへども漢字
かのちがひ或ハ書用の文字多くかへつて日用差支
文字のミ網羅今ハ書ハやく事足數用の文字のミ
数千字を擧一字毎に其音訓を附一字を見て字の
よろこぶ一字を知の便利と旦
例證のかずかずを掲出し一字を学ぶ事一字を学
備たり而已ならず実に節用集の大全書のために
考て俗日用の玉宝なり

祖徠先生　國學弁全弁異　全二冊
一名國学答問書
此書ハ世俗神儒仏の三道と双称するものもすべて其の
是非を論ずる堅執をさとし學の大意を述られたり

國學正辨　立綱上人作　近刻　全一冊
此書世の刻本数多あれど誤字多く今ハ其
誤字を正し假字ともに改めよろこぶ

一休ものがたり　全一冊

松屋高田先生著
擁書漫筆　画入大本　全五冊
此書ハ古今の文人雅客の随筆連続の体式ハ多くの
類書に似ると雖ども一家の見識を以て取捨
論文ともに考証ありて古人未発の説をあげ
七偏ま精日新陵陂叢考ともの称中ても尤
あるべし

大枝庵立綱法師著
うきまくら　初篇　全一冊
二篇三篇嗣出
古今六人の逸事を述てこゝろの考へ面白き人の
説を出あわれ也おもしろき人まで御國のまもべ
ら人なるべき当あり

高田先生著
諸國富士根元記　全一冊
此書ハ諸国の富士を集あれども諸国の富士を
洩し

右今和歌集	清輔	全一冊	
右世に刊行あまたこれどかきつぎてあやまり多くしてもと見ひとしからのかきひとよりて改正し校合をくはふるものなり			
頭書伊勢物語	大本	全二冊	
大叔菴立綱法師著 伊勢物語昨非抄	近刻	全三冊	
この書は人の説ばかりを集てはじめより終りまで己が説ども多くこれに加へられてかのをこうせちせられしと云ふ俗をきく人盛をきらびとふことなり			
真字二躰千字文	千蔭大人書	正面摺	
朗詠詩哥 浅紅帖	同	全一冊	
行書千字文		全一冊	
右三帖は橘千蔭大人の書給ひしを先生のかきとをまるものなればはなはだよろこばるるものなり			
周府君之碑	王羲之書	正面摺	
蘐文忠公之書		全	
圓其帖	米元章書	全	
尾濟書札集		全一冊	
御家流書帖	屋嶋先生書	全一冊	
大樓流和文章	小野甫先生書	全一冊	
同年中書札集		全一冊	
月儀帖	烏石山人書	全一冊	
獻壽法帖	赤井得水先生書	全一冊	

通俗用文章	法家日用文章	全一冊	
文章達業	老雛先生著	全一冊	
増補江戸年中行事	懐中本 近刻	全一冊	
文政大雑書	半帋本 近刻	全一冊	
柚玉狂哥集	俊成卿撰	全三冊	
相馬日記	高田先生著 蕙斎先生画	全四冊	
景清外傳	逢山翁作 歌川国直画	初篇二篇三篇 全十五冊	
津磨加佐禰	同作 同画	全六冊	
文覚上人発心記	橋供養 同作 雷洲画	全五冊	
同後篇	同作 勝川春扇画	全五冊	
同三篇	嗣出	全五冊	
旧観帖発端奥州道中の記	十返舎一九作	全二冊	

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s
ガラス使用

御免

粒甲丹　玉露飲

○粒甲丹　一名瞳眠薬　○一鍼代金百匹○半鍼代二朱○小半鍼代四匁

○粒甲丹の朝鮮歴代の神方ゆゑ細野道伯より傳来この方法のごとく製しゆゑ諸病の試ことごとく奇効あり真に難治死望の症とても百治百効と自信して今病者の幸ひと広く弘むるものなり

註　一百病危急を救ふ一切気付の妙薬なり　○諸病喉より胸へ急上息絶とゝろをよび○諸病喉より胸へ急上息絶とゝろをよび○諸病喉より胸へ急上息絶とゝろをよび

○霍乱食傷腹痛吐瀉○血積血の病肝積虫の病○脚気衝心○脚気衝心○脚気衝心

○婦人血の道逆上眩暈痛○婦人血の道逆上眩暈痛○婦人血の道逆上眩暈痛

○小児疳病五疳虫さし出疳の虫○小児疳病五疳虫さし出疳の虫○小児疳病五疳虫さし出疳の虫

○牛馬犬の牽小頓死○牛馬犬の牽小頓死○牛馬犬の牽小頓死

右之外男女小児とも一切諸病よく苦しみ頃刻にも止まらざるの時は必ず用ゆべし忽病勢後苦痛其外諸症の好後とゝろをよび

〈産前産後に禁ず〉

〈諸菜食物ホヨ一切さしあひなし〉

江戸賣弘所

怡憺堂製

伊勢屋忠右エ門

反元仏初品目

萍跡紀聞　立綱上人著　全二冊
近刻

この方上人筆墨の遺るものあるをもとしてその事蹟を編せる者なり

萍跡静話　同人作　全二冊
近刻

上人晩年の談話をあつめたるものにて前編の補遺なり

さゝなみ日記　同人作　全一冊
近刻

この方上人西山なる草庵にありて門人氏の物語を記せるものなり

全後編　同作　嗣出　全二冊

これは奥州より江戸に来る途中の名所古蹟を探り尋ねたる紀行にて前編の十倍なり

旧観帖　初篇二篇三篇　全四冊

はじめ安州の家の福七湯をつとめたる頃より奥州の諸侯の家に出入せし事ども又その後江戸に来りて諸侯の門に出入せし事ども又その後江戸に来りて諸侯の門に出入せし事ども

国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s

ガラス使用

製本所

上總

睦堂藏板

江戸京橋銀座二丁目
伊勢屋忠右衛門

上總澤睦堂藏板記

右御藥ら被
是迄新橋
南大坂町見世
ゟ賣弘所
此度京橋
銀座貳丁目
引移り家
根ゟ御目印
ゟ一ツ
類製出店
被仰付候ゟ右
座所被爲
申上候以上
文政寅
初冬

御免

賣弘所

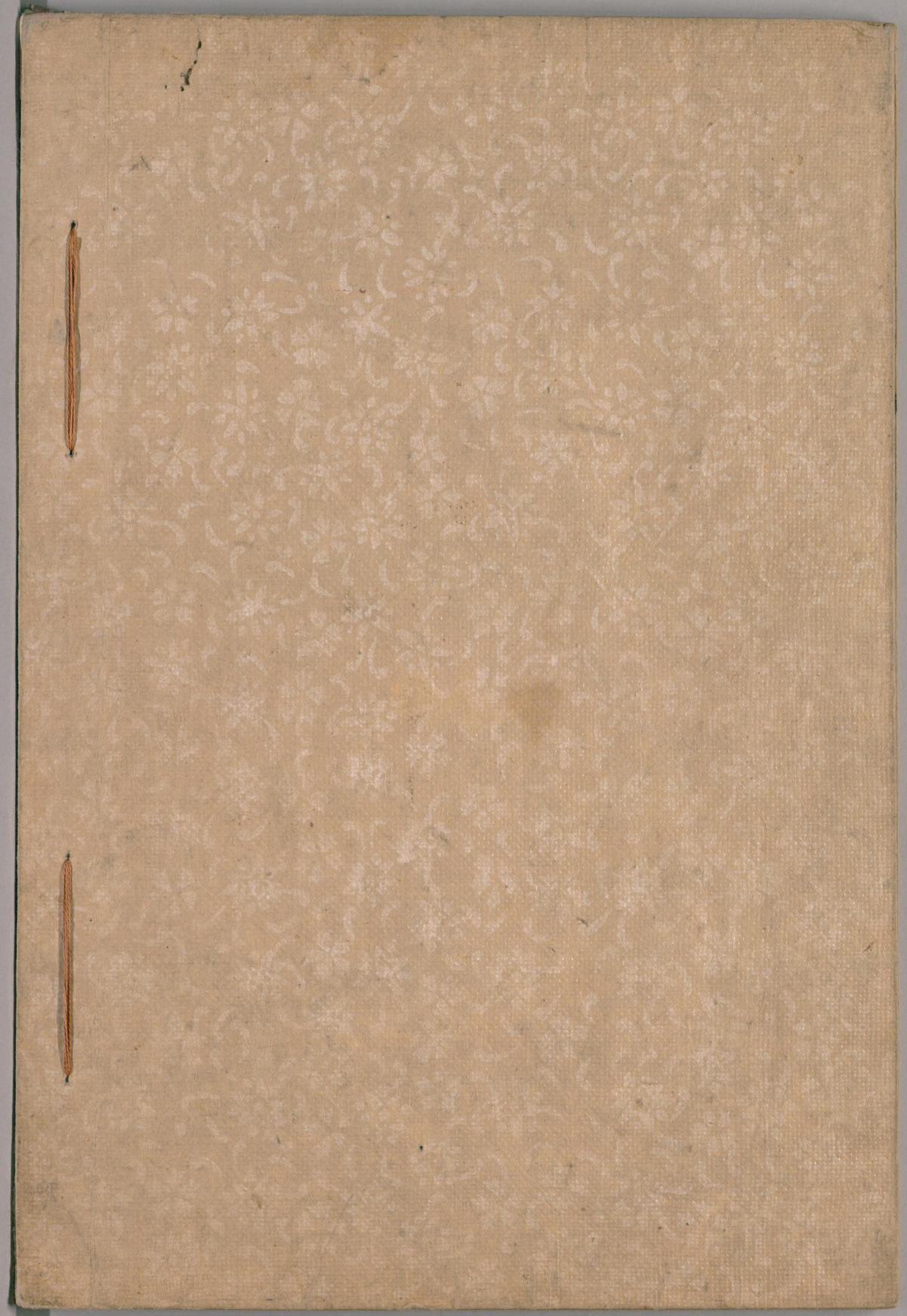
江戸京橋銀座二丁目
書林 伊勢屋忠右衛門
泉州貝塚宿 救生堂 製表

賣弘呼まぢない

紅毛聖藥 玉露飲 一名薄荷圓 ○一包價銀二匁

○蘭名ホレイフーリイ

一切痛肩背痛急黒の痛
一婦人子宮衝逆及血塊
一瘧疾截藥よし
一頭痛
一小兒癇忘疳病急緩
一眼病
一口中腫痛
一耳の痛又ハ瘍の虫
一疝氣
一中暑霍亂
一痘疹序逆
一切の虫蠱
一切の毒
一切の腫物
一切の瘡瘍
一切の熱病
一切の風病
一切の氣鬱
一切の血症
一切の血氣
一切の血暈
一切の白濁
一切の淋病
一切の腹痛
一切の疼痛
一切の眼病
一切の痛み
一切の痛
一切の痛
一切の痛



国立国会図書館　タイトル『三哲小伝』 請求記号 121.2-R99s

ガラス使用